

A S E L E No. 27

Tuesday, December 26, 2019

The Aomori Society of English Language Education Newsletter

青森県英語教育学会通信第 27 号 令和元年 12 月 26 日

2019 年度全国英語教育学会

第 45 回弘前研究大会が本県で開催されました。

全国英語教育学会第 45 回弘前研究大会が 2019 年 8 月 17 日（土）、18 日（日）の両日にわたって、弘前大学で開催されました。研究大会には国内外から 700 名を超える参加があり、研究発表・実践報告の他に、各種フォーラム、ワークショップ、シンポジウム、特別講演等が実施されました。

特別講演については、Curtin 大学教授 Rod Ellis 博士（オーストラリア・パース）を講師としてお招きし『The Task-based Lesson』と題して講演をいただきました。Rod Ellis 博士は、第二言語習得研究、英語教育学の国際的な権威であり、また、我が国の英語教育界においても、講演やワークショップなどを通して、研究者のみならず、広く、英語教育関係者全般に薫陶を授けておられます。Rod Ellis 博士の講演を通して、Task-based Language Teaching について学ぶことができたことは、本県の英語教育の発展のためにも非常に貴重な学習機会となりました。



全国英語教育学会に参加した感想

今回、初めて全国英語教育学会に参加させていただきました。4 年生として在学中から、弘前大学で学会が開かれるという情報は聞いていたため、当初から、英語指導力の糧にするため、絶対に参加しようと心に決めていました。平成 31 年 4 月から英語教員として働き始め、自らの課題点が見えつつある 8 月にこのような機会に恵まれて、非常に有意義だったと感じています。やはり、Rod Ellis 教授の講演は最大の魅力でした。改めて、タスクとは何か、タスクベースの授業とはどうあるべきかを深く考え直すことができました。私自身も現在、活動重視で英語授業を組み立てているため、8 月まで自分が行ってきた言語活動が、本当に質の高いものだったのかを振り返り、より良いものにすることが出来たと実感しております。また、自分が卒論で研究した分野について研究をしている教授や現場の先生の実践研究発表を聞くことができ、さらに深く考え、学ぶ機会を得ることができました。様々な人との意見交換を通じて、自分の英語教育観に磨きをかけることができた 2 日間だったと思います。本当に、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

岩手県立一関第一高等学校 三浦 京介



また、2 日間で 200 件を超える研究発表が 15 会場で行われ、4 技能それぞれの指導法をはじめ、動機づけやテスト、教材カリキュラム開発、教員養成および教師教育などをはじめとする英語教育の様々な分野に分かれて、研究についての発表および、それに関する活発な質疑応答が行われました。発表者にとってはもちろん、参加者にとっても、今後の研究についての有益な情報を得ることにつながるものでした。

全国英語教育学会弘前研究大会に参加して

開催地が4年間学んだ弘前大学であったことが、今回本学会に参加するきっかけになりました。初めて参加する大きな学会ということで、人の多さと規模の大きさにとても驚きました。小学校外国語活動に関する発表を中心に聞きましたが、発表を聞いているうちに感じたのは、安心感でした。現在英語専科教員として英語を教えている上で、たくさんの悩みや問題を感じています。発表者の中には、同じような経験や悩みを抱える方がたくさんおり、自分だけではなかったのだということにとても安心感を覚えました。多くの先生も日々苦勞しながら英語教育に向き合っているということが分かり、私の大きな励みになりました。同時に、私が今教えている土台となっているものが、今までの先生方の試行錯誤がこうした学会や本等を通じて共有されてきたおかげで成り立っているのだということを感じました。今回の学会で教えていただいた実践例や工夫などの具体的なアイデアは、次の授業や単元からすぐに使えるものばかりなので、私も、この学会で学んだことを学校の先生方と共有しながら、授業がもっと良くなるように努力していきたいと思います。また、発表を聞いている中で自分の知識不足や経験不足を痛感する場面も多かったので、今後はよりいっそう勉強に取り組み、次にこのような機会があったときに、今よりもっと深く考えることができる先生になりたいと思いました。

東通村立東通小学校 高畑 和子

大会の最後には、『日本の英語教育の将来：英語教育における「主体的、対話的で深い学び」とは何か？』というテーマで、長崎 政浩（高知工科大学）、和泉 伸一（上智大学）、太田 洋（東京家政大学）、峯島 道夫（新潟県立大学）の各先生をパネリストにお迎えしてシンポジウムが行われました。次期学習指導要領のキーワードである英語教育における「主体的、対話的で深い学び」とは何か、そして、そのためにどのような授業改善が求められるのかについて、パネリストのそれぞれの立場からの提案を柱に、参加者からの発言も取り上げながら、活発な意見交換がなされました。



また、当日は学生サポーターとして34名の大学生・大学院生が準備・運営に携わりました。研究大会に関する参加者のアンケートには、学生サポーターのあいさつや働きぶりを評価する回答が多く寄せられるなど、大会成功に大いに貢献してくれました。また、学生サポーターとして全国規模の学会運営に関わることは学生自身の成長にもつながったものと信じております。

全国英語教育学会弘前研究大会にボランティアとして参加して

毎年全国の47都道府県持ち回りで行われている全国英語教育学会が令和元年に弘前市で開催され、全国、また海外からも多くの方々に来ていただいた。47年に1度というタイミングを大学生という時に迎えられて大変嬉しく、また、様々な場所から来る方々をボランティアとして迎え入れることができ大変貴重で有難い体験をさせていただいたと感じている。様々な先生方の研究発表も何度か拝見させていただくことができ、自分の将来の英語教育に活かしたいと思った。たった2日間であんなにも多くの研究発表をボランティアという立場から拝見できる機会はもう二度とないだろう。

Dr. Rod Ellisの講演の際、大変多くの方々に会場に来ていただき、会場はすぐに満員となり、サテライト会場にもかなり多くの方が行っていた。多くの人が聴きたいと思うDr. Rod Ellisの講演を少しでも聴きたいと思ったが、入るタイミングを見失いサテライト会場の外で彼の声だけを聴いていた。英語教育に興味があり聴きたかったのだが、英語をなかなか聴きとることができず難しかった。しかし、生で英語でDr. Rod Ellisの講演を聴くことができたことは大変貴重な体験となった。これもまた二度とない経験であったと思う。

今後英語教育に携わりたいのでこの貴重な体験、伺った研究発表等を基に、これから一層深く英語教育について真剣に学んでいきたい。

弘前大学教育学部学校教育教員養成過程初等中等教育専攻小学校コース3年 清水 咲良

末尾になりますが、弘前研究大会の準備・運営に際しまして、学会員の皆様より多大なるご支援とご協力を賜りました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

来年度研究大会は岩手で

来年度の年次研究大会は岩手支部が担当支部となっております。シンポジウムテーマや特別講演等、具体的なプログラム内容については、これから随時公表されることとなりますが、とりあえず、現時点で決定している分についてご紹介しますと、次年度研究大会での青森支部担当は、**校種指定なしの自由研究発表**、シンポジウム提案発表、自由研究発表司会となっております。このうち、自由研究発表を希望される方は、発表タイトルと発表概要（和文 400 字程度）を**令和 2 年 2 月 1 4 日（金）**までに**裏面記載の県支部研究紀要編集事務局宛て**に郵送、E メールまたはファックスにてご提出願います。複数の応募があった場合は発表概要を県支部紀要査読委員会にて審査の上、発表者を決定させていただくことをあらかじめ御了承ください。また、自由研究発表司会をお引き受けいただける方も募集しております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、大会概要は下記の通りとなっております。

東北英語教育学会第 3 9 回岩手研究大会

【期 日】 令和 2 年 6 月 2 7 日（土）・2 8 日（日）
【会 場】 岩手大学（〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3 丁目 1 8-8）
【日 程】 2 7 日（土）午後 理事会、懇親会
2 8 日（日）午前 研究発表（2 室）
 昼 総会
 午後 シンポジウム、特別講演

令和 2 年度全国英語教育学会第 4 6 回長野研究大会

来年度の全国英語教育学会研究大会は関西地区英語教育学会の主管により長野市で開催されます。日程、会場は下記のとおりです。大会要項は来年 5 月上旬に大会事務局から送付される予定です。

【日 程】 令和 2 年年 8 月 8 日（土）・9 日（日）
【会 場】 信州大学教育学部（〒381-0000 長野県長野市大字西長野 6-ロ）

東北英語教育学会研究紀要第 3 9 号論文募集

— 投稿希望者は 1 月 1 0 日（金）までに県支部編集事務局に連絡を —

東北英語教育学会では、研究紀要第 4 0 号（令和 2 年 3 月発行予定）掲載論文を募集しております。掲載論文は各県 3 編までで、未発表の研究論文及び実践報告が対象となります。論文投稿にあたっては、必ず、東北英語教育学会のホームページ <https://sites.google.com/site/tohokueigo/> に掲載の投稿規定等をご確認ください。投稿希望がございましたら、**令和 2 年年 1 月 1 0 日（金）**までに、研究主題及び概要（和文 400 字程度）を添えて、**下記県支部編集事務局まで**ご連絡ください（ファックスまたは E メールでも可）。投稿希望者には投稿必要書類等を送付いたします。編集準備作業の都合上、投稿申込み締め切り以降の受付は応じかねますのでご注意ください。原稿締切は**令和 2 年 2 月 1 4 日（金）**で、原稿提出先は同じく県支部編集事務局となります。原稿につきましても、締め切りを過ぎたものは受理しかねますので、提出にあたっては、くれぐれも締め切りを厳守いただくようお願いいたします。なお、**投稿論文の採否**については、東北英語教育学会研究紀要投稿規定に従い、**県支部査読委員による査読審査の上、決定**させていただくことをあらかじめ御了承下さい。

【研究紀要青森支部編集事務局】 青森公立大学経営経済学部 丹藤永也研究室
〒030-0196 青森市大字合子沢字山崎 153-4
TEL/FAX : 017-764-1676 E-mail : hitando@b.nebuta.ac.jp

会員登録の確認と学会費納入のお願い

令和2年1月末日をめどに下記振込先まで学会年会費をお振り込みいただきますようお願い申し上げます。**東北会員は4,000円、全国会員は6,000円**となっております。現時点での会員登録状況は、封筒の宛名シールの下部に「全国会員」、「東北会員」という記載がありますので、ご確認いただければと思います。なお、平成31年12月15日現在で過年度の学会費が未納となっている会員各位には、さらに別紙にて納入のご案内をさせていただいております。本依頼状と行き違いにご納入いただいている場合は、失礼の段、なにとぞご容赦のほどお願い申し上げます。また、これも毎回お願いしていることですが、勤務先、現住所を変更された場合は速やかに事務局までご連絡ください。

今後は、簡単な事務連絡については、郵送料節約のため、できるだけEメールを利用したいと考えております。将来的にはニュースレターについてもEメール配信を考えております。つきましては、まだ事務局から一度もメールが届いていない学会員の皆様には下記事務局担当者のアドレスまで、ご氏名のみで結構ですのでメールを送信していただきたくお願い申し上げます。メールアドレスを変更された方につきましてもあらためてご連絡いただけますようお願い申し上げます。

◇ASELE Newsletter No. 27をお届けいたします。実行委員のメンバーは誰もが本当に本県で全国英語教育が開催できるのか？参加者のみなさまが「いい研究大会だったなあ。青森に来てよかった！」と心から思ってもらえるような学会になるのか、学会が終わるその瞬間まで不安でいっぱいだったのではないかと思います。正直、大変だったことやピンチのようなことも少なくはありませんでしたが、互いに励まし合い、フォローしながら、ひとつひとつ乗り越えることによって、実行委員同士の絆が強くなっていくのを感じました。学会運営を通して築き上げたこの絆を今後は、教育・研究活動に生かしていくことで、青森県の英語教育にフィードバックしていきたいと考えています。

(文責 佐藤)

青森県英語教育学会通信 (ASELE Newsletter) 第27号

2019年12月26日発行

発行者 青森県英語教育学会 (ASELE)

代表者 野呂徳治

発行所 〒036-8560 弘前市文京町1 弘前大学教育学部英語教育講座 佐藤剛研究室

青森県英語教育学会 (東北英語教育学会青森支部) 事務局ニュースレター担当

電話&FAX: 0172-39-3448 E-mail: satotsuyo@hirosaki-u.ac.jp

学会費振込先 青森銀行富田支店 普通預金 口座番号 1009612 名義 青森県英語教育学会 代表 野呂徳治